opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2013年7月)

「カトリック信仰の美しさに 気づいていますか。」今月の 書簡にオプス・デイ属人区長 が尋ねています。今月は、特 に聖なる教会に焦点を当て述 べています。

2013/07/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 二日前に使徒聖ペトロと聖パウロの 祭日を祝いました。二人は、キリス トのためにローマで命を捧げた信仰 の柱です。聖ペトロはこの町に教座 を定め、この世の生を殉教の冠で終 えました。こうして、ローマの教会 は、「ローマ市内外の全ての教会の 母・頭」になったのです。このよう にして、神が啓示された教えをキリ スト信者に確信させ、見える形で一 致を保障しようと望まれたこの決定 を神に感謝しましょう。そして、 日々、自分に打ち勝ちつつ献身する ことを学びましょう。

神は、長い救いの歴史の中で教会の 創立を準備なさいました。まず、日 約時代にイスラエルをご自分のるの 民ど で選び、時が満ちると愛する御子とでは、宣教と奇跡を通して準備 し、また十二使徒を召し出してさい 自分の贖いの使命の後継者になさに、「しかし教会は、とくに、

キリストがわたしたちの救いのため にご自身を余すところなくお与えく ださったことによって誕生しまし た。キリストはこれを、聖体の秘跡 を制定して先取りし、十字架上の死 によって実現なさいました。| [i] そ して「父が子に地上で行なうべきも のとして委任したわざ(ヨハネ17,4参 照)が完了した後、ペンテコステの日 に聖霊が派遣された。それは、聖霊 が教会を常に聖化するためであ る。」[ii] 創立者が望まれたよう に、この二つの神秘に心から驚嘆 し、信仰を強めてくださいと天に願 いましょう。

教会は全面的に、人となられたみことばによるもので、このみことばは世の終わりまでこの世にお留まりになります。そして、教会は、ご自分の神殿としてその中にお住まいの聖霊によって統治されます。この教会と至聖三位一体との深い絆を感謝し、崇めましょう。教会、そして私

たちは、神の聖なる民、イエス・キリストの神秘体、慰め主のお住まで、お住まで、ですから、信条で、対するというこの教会の神秘を宣言するのは理に適ったことです。教会は救いのための普遍的な秘跡であり、私たちの聖性の業を現します。

「わたしは、聖なる、普遍の、使徒的、唯一の教会を信じます。」[iii] この四つの言葉は教会の本質を表しているというので、を表しているの教養を見かけるしているの本質といっているの本質といっているの本質といっているの本質を示すものでいるといっているというでいるというではいるしるしるしるします。」[iv]

「教会の超自然的性格を宣言しましょう。必要ならば大声を学げてこめ要ならば大声をは(…)、大き白しましょう。最近は(…)、大きの重要な言されたちがは、でいる教会は、聖でもないでもないのでもない。またなのでもあり得ないのでもあり得ない。また、ぐ)なりがありまれて切り刻(きざ)まれている。」[v]

聖ホセマリアのこのきっぱりとしたとしている。教皇フラウラを現実です。教皇フランのです。教皇ではないです。教皇ではないです。ではないではないではないではないではない。のよいははいいではないがはないができる。のよいははいいがではないができる。これにはないができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいができる。これにはいいがいる。

です。教会は、神の子からなる偉大な家族です。いうまでもなく、教会にも人間的な側面があります。教会を構成する司牧者と信者には、欠陥や不完全さや罪が存在します。(…)

しかし、すばらしいことがあります。わたしたちは、自分が罪人であることを受け入れるとき、神の憐れみを見いだします。神はつねにゆるしてくださるからです。」[vi]

そして、教会を通してそのゆるしを お与えになります。教会は、救い主 のみことばと、私たちを聖化する秘 跡を委託されているのです。

「カトリック教会の中でカトリック 信者が見出すのは、私たちの信仰と 行動の規範、祈りと兄弟愛、また、 この世を去り、今は煉獄で清めを受 けている(清めの教会の)すべての 兄弟たち、ならびに至福直観を(勝 利の教会で)楽しみつつ、三重に聖 なる神を永遠に愛する兄弟たちとの 交わりです。この地上にとどまりながらも歴史を越えているのが教会です。聖マリアの庇護のもとに生まれた教会は、この世と天国でマリアを母と讃え続けています。」[vii]

聖ホセマリアは来る日も来る日も、 聖なる教会を熱烈に愛し、私たちに も同じことを要求しました。全ての 栄光を神に捧げるため、又人間的な あらゆる活動の頂点にキリストを据 えるための道がOmnes cum Petro ad lesum per Mariam! であるという ことを聖ホセマリアはオプス・デイ の創立の瞬間から明白に悟っていま した。私たちは皆、心を合わせて、 地上におけるキリストの代理者であ る教皇様の意向と熱意に一致し、マ リアを通ってイエスにたどり着かな ければなりません。全てのカトリッ ク信者のために、『道』にこう書き 残されました。「Et unam. sanctam, catholicam et apostolicam Ecclesiam!… エト・ウ

ナム・サンクタム・カトリカム・エト・アポストリカム・エクレジアムと祈るとき、あなたが一言一句を噛みしめ、味わいながら唱える気持ちがよく分かる。私は、一、聖、公、使徒継承の教会を信じると。」[viii]

教会は一です。というのも「自らの 一致を御父と御子と聖霊の一致から 受ける一つの民」[ix] だからです。 この一致は、信仰と礼拝―特に感謝 の祭儀―と位階的交わりの三つの絆 を通して表明されます。同時に、教 会は普遍です。あらゆる国と民族、 全ての文化に開かれています。多様 な典礼様式や神学的霊的な伝統、規 律がありますが、どれもこの一致を いささかも傷つけないばかりか、一 致を表明しているのです。それゆ え、「キリストの教会の組織の外に 本来教会に属し、カトリック的一致 を目指す真理と成聖の要素が数多く 存在することを認めながら(『教会憲 章』8参照)、またキリストの弟子た

ちの心の中にこの一致に対する愛を 呼び起こす聖霊の働きに信頼しまた。 」[x]、救いは教会を通してなりまた。 う」を強調しなければが救った。 うれることを強調しなければが救った。 を強調しなければが救ったがあることを強調しながあることを音じるおける。 ために必要であることを含じるあります。 ために必要であるがかれたのからだ、そのキリストであって、そのキリストであるとを書であるよりである。 かれわれにとって現存するからした。 もの救いの計画は、すべての人間を包む。」 [xi]

カトリック信仰の美しさに気づいていますか。創立者が言っておられたように、神の聖なるみ旨は「するといるの人々が救われて真理を知ることと」[xii] だと教えることででいることはなくなるのではなくなるのではなくなるの手段を対しため教会は信者に救いの手段を熱って使徒職のまたそれによって使徒職のを取り立てます。こうして、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについて教え、キリストについておいた。

トの愛を伝えることがキリスト者の 召し出しの本質になります。誰もこ の責任から逃れることはできませ ん。私は、それをどのように受け 取っているか、また、全人類のため にどれほど熱心にお願いしている か、を考えなければなりません。

確かに「本人のがわに落ち度がない ままに、キリストの福音ならびにそ の教会を知らないが、誠実な心を もって神を捜し求め、また良心の命 令を通して認められる神の意志を、 恩恵の働きのもとに、行動によって 実践しようと努めている人々は、永 遠の救いに達することができる。| [xiii] しかし、主は、福音化の仕事を 進めるのに私たちの協力をお望みで す。一人ひとり、自分の置かれた場 所で、日々、この救いのメッセージ を知らせ、贖いのみわざが全ての人 に及ぶよう手を貸さなければなりま せん。聖ホセマリアが強調されたよ うに、忘れてならないことは、「自

分の責任で良心を歪め、罪に凝りるまり、神の救いのわざに抵抗するとでとてということであり、もあり得るとが、キリストなるのが、キリストなるのが、自時に必要なの真理、倫理道徳必要ながらるとにかの本性にです。と同じないないです。というが定められた秘跡なのです。」「xiv」

「このように教会は祈り、また働くのであって、それは全世界の全ての人々が神の民、主のからだ、聖霊の神殿となり、すべてのかしらであるキリストにおいて、万物の創造主である父にすべての栄誉と栄光が帰せられるためである。」[xv]

私たちは、教会建設のために働くことが急を要する時代に生きています。あらゆるところで油染みのように拡がっている相対主義や無関心一

さらには神の排斥一の雰囲気に対し て、意気消沈したり、僅かなりとも 悲観主義に陥ったりしてはなりませ ん。信仰を真剣に受け止めている私 たちですから、人々を神と教会に近 づけるよう喜んで努力すべきです。 これは特別な人の什事だと考えては なりません。私たちがすべきこと は、生活を全面的に神に向かわせる ことをきっぱりと決意して歩みを続 けることです。慰め主はいつも人々 の心の中で働き、一人ひとりに一多 分全く予期しないときに一 永遠に対 する、超自然の命に対する燃えるよ うな渇きをかきたてられます。私た ちは一人ひとり、その働きかけを自 中に受け入れ実行することを表明し なければなりません。「御父の偉大 な愛の計画に従って、神の民となる とは、人類における神のパン種とな ることです。私たちの世に神の救い を告げ知らせ、もたらすことです。 世はしばしば道に迷っています。そ して励まし、希望を与え、新たな歩

む力を与えてくれるこたえを必要と しています。」[xvi]

繰り返します。確固として信仰に留 まり、落胆したりしないことです。 現代は善を学び広めるすばらしい機 会に恵まれています。毎日、出会う 人々に主について語り、主への愛情 を表明する機会がたくさんありま す。主への信頼を倍加しましょう。 「神は悪よりも強力です。なぜ強力 か分かるでしょうか。なぜなら、神 は主だからです。唯一の主だからで す。付け加えて言いたいことがあり ます。悪を特徴とする、時として暗 い現実は、変わりうるものです。そ のために、まずわたしたちが、何よ りも自分の生活をもって、福音の光 をそこにもたらさなければなりませ ん。競技場で(…)、ある真っ暗な 夜、だれかがライトをつけても、か ろうじて光が見えるにすぎません。 しかし、七万人の観衆がそれぞれラ イトをつければ、スタジアムが照ら

されます。自分の生活をキリストの 光としてください。あらゆるところ に福音の光をもたらそうではありま せんか。」[xvii]

教皇様の言葉を伝え広めましょう。 それには、日々、仕事や家族生活、 社会生活やスポーツ活動などあらゆ るところで、イエス・キリストに従っ ている人の明るさを撒き散らすこと です。これは、よく祈り、ゆるしの 秘跡に度々あずかり、ご聖体を頂く ことで達成できます。

聖ホセマリアの祝日には世界中で多くの祈りが、特に聖なるミサが捧げられました。それは、ドン・アルバロが繰り返しておられたように「往復の祈り」となって、私たち自身と友人たちに多くの実りがもたらされることを確信してください。

近々ブラジルに行きます。今月下 旬、リオデジャネイロで開催される ワールドユースデーで教皇様に同伴

するためです。その後、神がお望み なら、チリーとウルグァイ、そして アルゼンチンを訪れる予定にしてい ます。子どもたちとプレラトゥーラ の使徒職に参加している人たちに、 教会が皆に期待していることを直接 伝えるためです。教皇フランシスコ は、先代の教皇方と同じように、世 界中でキリストの教えを広めるた め、皆一人ひとりを頼りにしておら れます。6月10日に謁見していただ いたときにそのようにおっしゃいま した。教皇様とそのご意向のために 祈り続けてください。他の折と同じ ように、ブラジル、そしてその後に 予定している国々での日々に、主が 多くの霊的実りをもたらしてくださ るように、皆のお祈りを当てにして います。このような状況の時にはい つも、ペトロの後継者により真剣に 一致するよう促されます。皆が、教 皇様と一致し、教会と人々に奉仕し ておられる教皇様に固く一致し、子

どもとして教皇様に付き添わなけれ ばなりません。

7月7日は、ドン・アルバロがオプス・デイに加わることを願い出た記念日です。私たち皆がキリスト者の召命にいつも忠実であるよう、その取り次ぎを通してお願いしています。そして16日はカルメルの聖母の祝日です。私たちが聖性への望みと使徒職の熱意に満たされるよう聖母に母としての仲介を頼んでいます。

この手紙をサラゴサから送ります。 大司教様のお招きで聖ホセマリアと 福者ヨハネ・パウロ二世のご像を祝 別するためにきました。ご像は二つ とも信者が崇敬するため、この街に ある教会に安置されます。この後、 アメリカ旅行に出発するまでしばら アパンプローナに滞在します。 意向のために祈り続けてください。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。 皆さんのパドレ

†ハビエル

サラゴサ、2013年7月1日

<u>[i]</u> 『カトリック教会のカテキズム』 776番。

[ii] 第二バチカン公会議『教会憲章』4番。

[iii] ローマ・ミサ典書、「ニケア・ コンスタンチノープル信条」。

[iv] 聖ホセマリア、1972年4月4日説 教「教会に忠誠を尽くす」。

[v] 聖ホセマリア、1972年5月28日説 教「教会の超自然的な目的」。

[vi] 教皇フランシスコ、2013年5月 29日一般謁見講話。

[vii] 聖ホセマリア、1972年5月28日 説教「教会の超自然的な目的」。 [viii] 聖ホセマリア、『道』517番。

[<u>ix]</u> 聖チプリアノ、『主の祈りにつ いて』23「PL

4,553]。

[x] パウロ六世、1967年6月30日「神の民のクレド」22番。

[xi] 同上23番。

[xii] 1テモテ2,4.

[xiii] 第二バチカン公会議『教会憲章』16番。

[xiv] 聖ホセマリア、1972年5月28日 説教「教会の超自然的な目的」; 聖 トマス・アクイナス『神学大全』 q. 62, a.1, q.61,a.2参照。

[xv] 第二バチカン公会議『教会憲章』17番。

[xvi] 教皇フランシスコ、2013年6月 12日一般謁見の講話。

[xvii] 同上。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2013nian-7yue/ (2025/12/17)